

令和5年度 第2回瑞穂市総合教育会議 会議録

令和6年3月25日(月)午後1時30分開議

○日 程

開会

1 あいさつ

2 議題

- ・新年度事業について
- ・こどもまんなか応援サポーター宣言の取組について
- ・市の人口減少対策について(意見交換)

3 その他

閉会

○出席者

市 長	森 和 之	教 育 長	服 部 照
教育長職務代理者	森 下 伊三男	教 育 委 員	加木屋 加緒里
教 育 委 員	大 平 高 司	教 育 委 員	伊 藤 清 美

○欠席者

なし

○説明のため出席した者の職・氏名

教育委員会事務局長	佐 藤 雅 人	教育総務課長	井 上 克 彦
学校教育課長	郷 通 芳	幼児教育課長	野 口 智 子
生涯学習課長	野 田 秀 樹	給食センター課長	松 野 光 広
健康福祉部長	佐 藤 彰 道	子ども支援課長	宇 野 由 里

○職務のため出席した者の職・氏名

総務部長	石 田 博 文	総務課長	小 野 由美子
総務課主幹	井 上 源 英	総務課主事	黒 坂 昌 平

○傍聴者

1人

開会 午後1時30分

### 開会の宣言

○総務課長 本日は大変お忙しいところ、令和5年度第2回瑞穂市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の司会は総務課の小野が務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議に入る前に皆様方にお諮りいたします。本会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により原則公開となっております。

ただいま傍聴希望の方が1名いらっしゃいます。傍聴希望者の方の傍聴を認めるということでよろしいでしょうか。

(全員同意)

ありがとうございます。

もう1点瑞穂市総合教育会議運営要綱第7条の規定に基づき、議事録には出席者の氏名等が公表されますことも申し添えます。

それでは初めに森市長よりご挨拶を申し上げます。

---

### あいさつ

○市長 皆様こんにちは。本来なら春の訪れを感じるようなそんな季節となってきましたが、桜の開花も遅れているということで、ここ数日は少し寒い日も続いておりますし、雨で天候も悪いというような中、年度末のお忙しいところ今日第2回目となります瑞穂市総合教育会議にお集まりいただきましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、日ごろから皆様には教育委員というお立場でいろんな教育のことにつきましてご尽力をいただいておりますことにお礼を申し上げます。きょう午前中、小学校の卒業式にもお世話になったと思います。私は本田小学校の方に伺いました。事前に校長先生にどんなクラスですかということを、出る学校ではだいたいお聞きをして、この6年生の学年は、共に生きるというテーマで、障がい者の車椅子の体験とか、パラリンピックのアスリートを呼んでいろんな障がい者、障がいのある方もない方も一緒になって、共生社会のような学習をしてきたということ伺って伺ってましたので、そのお話をほめてあげるのは1つなんですけど、とても大きな声で返事をして、1人1人が卒業証書ももらいに行く姿ということで、そのお祝いのあいさつの原稿の中にはなかったんですが、その姿を見て皆さんが立派に成長した姿を見せてもらいましたということをその祝辞の中で付け加えさせてもらったということで、とてもよい卒業式になりましたので報告をさせていただきます。

今年は元日から能登半島の地震があり、今日も市役所の方から職員が1名行っていると思いますが、23日にも、揖斐川町の辺りで震度4の地震があるというようなことで、今回議案にもありますが、新年度の予算にも避難所への水の確保とか、トイレの問題、さらには避難所となる中学校の体育館のエアコンについても計上をしております。

石川県の能登半島地震においてはまだ、9千人を超える方々が避難をしておられます。先日の新聞では6市町の職員の22%に疲れが出てきているというような報道もある中、このような時こそ行政がしっかり支えていく支援をしてかなければならないと思っています。

話題は少し変わりますが、昨年5月1日に瑞穂市制20年を迎え、20周年の記念事業を毎月、行ってきました。昨日のNHKのど自慢は、2年越しに応募してやっと実現したもので、23日の予選会には250名の方が12時ぐらいから17時近くまで歌ってみえました。

最初の1時間ぐらい予選会を拝見させていただきましたが、とても皆さんうまい歌で私のところにも十数名の方から、予選会に出るので応援に来てくださいというようなそんな連絡をいただいております。

実は10年前にNHKのど自慢が来た時には、企画部長という立場でした。当時はとてもさみしく、瑞穂市民の方が本当に数名しか出ておられなかったということで、今回は予選会から本当に盛り上げることができたというようなことを思います。

また、昨日の本選にも私が記憶する限りでは、20組の中で6名ぐらいの市民の方が参加をしておられ、中でも2人が鐘が鳴ったといいますか、賞をいただいたということ、そして本田に住んでみえる野津さんという方が特別賞をとられたということで、23日の17時半に発表される時、なんであの人が選ばれるのかなということは思ったんですが、本番会場の中で拝見するとやっぱりお上手といいますか、年齢的にも選ばれたんじゃないかなということを思いました。

この20周年の記念事業も昨日のNHKのど自慢でフィナーレを迎えたということになります。20周年では「人権の尊重」、「平和の維持」、「環境の改善」といった3つのテーマで次の時代を担う子供たちにつないでいくということで、3つの市の宣言がそろいましたので、これから人権、平和、環境といったそれぞれの事業をこれからも次の時代を担う子供たちのために進めていきたいということを思っております。長くなりましたが今日はよろしくようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

○総務課長      ありがとうございます。それでは瑞穂市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、これより森市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

## 議題 新年度事業について

### ○市長

では1つ目の議題であります新年度の予算概要についてということで、お手元に当初予算のポイントという資料がいきわたっているかと思いますが、令和6年度4月からの予算ですが、一般会計の総額では217億7千万円、令和5年度と比較をして12.1%の増加、金額にしまして23億5千万円の増加ということになりました。過去最大規模の予算ということで、私常々から申し上げておりますが、予算規模が大きくなっていかなければ、まちの発展はないということをおもっております。人口が減少して予算規模が小さくなっていくということもあるかと思いますが、予算規模というのはまちを発展させていくために1つのバロメーターになるのではないかと考えています。

続いて3ページ目になると思いますが、令和6年度の主要事業ということで令和6年度の市の方針としましては、地方創生の3つの拠点をさらに進めていきたいということで、サンコーパレットパーク、駅周辺の整備、3つ目が犀川グリーンインフラ事業の3つの地方創生の拠点の整備ということになります。

そして先ほど申し上げましたが、20周年で掲げた人権の尊重、平和の維持、環境の改善といったテーマで次の時代を担う子供たちによい瑞穂市をつないでいきたいということをおもっております。

3つ目がウェルビーイング瑞穂ということで、持続的な幸福の実現ということになります。実は令和6年度は計画を立てていく年と位置付けています。市の最上位計画である総合計画、そして都市計画マスタープランも4月以降着手をしていかなければなりません。さらには子ども計画、令和5年度において高齢者の計画や、障がい者の計画も立てておりますので、それらを総合計画の中に取り入れていくような、そんな形で進めていきたいということをおもっております。

中でも都市計画マスタープランは、これまでも瑞穂市をどんなまちにしていくなかということで、かなり先を見た都市計画マスタープランが瑞穂市の場合には作られています。10年前にですね、10年前に20年先を見据えたマスタープランということで立ててあります。

今回そのマスタープランの改定にあつては、今日都市整備部は来ておりませんが、瑞穂市のゲートウェイ構想みたいなものを立ち上げていきたいということで、それも現在のマスタープランの中に8割以上入っています。というのは、瑞穂市の玄関というのはJR穂積駅、では東の玄関となるのは国道21号線の穂積大橋を西に降りてきたあたりが東の玄関になり、商業集積や、そして穂積駅の西に降りてきた南側には、マスタープランでは(仮称)天王川公園というような公園が位置付けてあります。これは防災の拠点ということで、長良川の堤

防の高さまで盛り土をしたヘリコプターなどが下りてくれるような防災の拠点づくりを進めるということで、国の方も進める計画があります。

では西の入り口はといいますと、揖斐川を東側に降りてきたあたりも、都市計画マスタープランでは商業集積をするといった計画になっています。

北の玄関はと申しますと本巣縦貫道の馬場の交差点、こちらはもう商業集積が区画整理事業とともに終わっております。

南の玄関は本巣縦貫道のプラント6がある穂南地区になりますが、犀川グリーンインフラを進めていくということでこちらも現在のマスタープランや公共下水道事業と並んでやっていくというような状況になります。

そして今の東西南北、正面玄関合わせて東西南北の玄関にプラスする形で岐阜県南大野線ですが、こちらは現在重里地内でもう二十数年間迂回をしているという道路になりますが、こちらを大野神戸インターにつないでいくということで、正面玄関、東西南北の玄関にプラスする形で岐阜県南大野線のゲートも考えていくような計画を持っています。

お手元の資料を少しずつですが説明させていただきます。瑞穂市の公共交通事業のその下になりますが、拡充というところで、ふるさと応援寄附奨励金ということで、今年度の他市町に住んでおられる方が瑞穂市に応援をしていただくというふるさと応援寄附になりますが、おそらく7億7千万円ぐらい今年度他市町からのご寄付がある予定であります。県内でも上位に位置をします。県内ではというか、東海3県で一番寄付額が多いのが関市の40億近くになると思いますが、その金額よりは少なくなりますが、瑞穂市のこの面積で、この企業数で7億7千万円というのは本当によく職員の皆さんにやってもらっているということを思います。

次のページへ行っていただきますと、JR穂積駅の拠点化構想ということで、こちらは今年の9月までに駅の南側に都市計画決定をしていくというような運びになります。穂積駅は瑞穂市の玄関口であるということから整備をしていく、そんな予算の計上となります。

その下が先ほどあいさつでも申し上げましたが、防災備蓄の充実や避難所への給水対策ということで、今回石川県の地震を受けて、やはり水の確保ということで、どのように水を避難所へ運んでいったらよいのかということで、折り畳み式の簡易の給水タンクを購入して、軽トラやリヤカーなどで運んでいけるような体制や、トイレも簡易の使い捨てのようなトイレを今回計上をしております。

さらに次ですが、市内の3中学校の体育館へのエアコン整備ということで、本来なら1中学校ずつ整備をしていくというところが、1年度ですべての3中学校を整備するというような予算が3億6千万円ほど計上をしております。

新年度予算について細かく説明するとすごい時間になってしまいますので、子供たちに関わるところだけ少しお話をさせていただきます。次のページをご

覧いただきますと、子ども家庭センター事業ということで今まで健康の保持や増進ということで、子育て世代包括支援センターで各種の事業を行っていましたが、それを一体的な組織として、子ども家庭センターに集約して、進めていくというのが子ども家庭センター事業となります。

そして、下から2つ目になりますが、少子化対策ということで、少子化対策の1番は、お子さんに恵まれないご夫婦にお子さんが授かるような特定不妊治療ということで、今までの不妊治療は保険適用がなされてきたということで、市では県内でも珍しいと思いますが、特定不妊治療の先進医療の助成事業として、250万円を計上して、お子さんに恵まれない方が先進的な不妊治療をやっただけのようなそんな予算を計上したのが子育ての支援となります。

そして次の教育委員会のページを見ていただくと、それぞれ教育委員会の事業がありますが、これらにつきましては教育委員会の方である程度検討をされ、説明を受けておられると思いますので、私の方からは省略をさせていただきますが、次のページの英語教育の推進ということで5千75万4千円ということで、英検などの検定料の一部を市が助成をしているということ今年度から始めております。

英語については、どんどん検定を受けて、その技能を高めて、話す能力を進めていっていただきたいんですが、習得した英語を発表するような場も私は必要ではないかと思しますので、中学生の英語スピーチコンテストみたいなものができるのかできないかというようなこともご検討をしていただけたらと思います。

そして最後のページになりますが、瑞穂大学健幸学部の講義の充実ということで、こちらは高齢者の方々が活力の源となるような、瑞穂大学に戻ってほしいということをお願いをしております。

この大学が発足した当時はかなりの高齢者の方々が受講されて、楽しみや生きがいづくりの1つとなっていたと思います。さらに今年度から講義の内容を充実や拡大させて、高齢者の方々が集い、生きがいを持ち、生涯現役で活躍できるような社会につながるように、もう1度この瑞穂大学というのを発足当時のように進めていきたいということをおもっております。

少し長くご説明をさせていただきましたが、新年度の事業の中で何かご意見ご質問がございましたらお願いをしたいと思います。

## ○大平委員

この前の教育委員会の時にお話して、私、自治会長をやっているのですが、中学校の体育館の空調設備の整備ということは非常に大事なことで、ぜひやっていただければいいなと思っています。防災面に加えて、前にお話したんですけど、子供たちの体育の時間などは、夏場はすごく暑くなっているので、多少でも利用できるありがたいかなと思いました。なかなか費用もたくさんかかるだろうし、あの大きい体育館なので大変なんですけれども、そういう利用の仕方がで

きないかなということをご期待しながら思っておりました。

○**教育総務課長** 2月16日の第2回の教育委員会定例会の方でもご説明させていただきましたが、工事の方はアリーナ、卓球場、武道場ですかね、順次工事が終わったところから開放して生徒さんたちに使っていただけるように工事のほうを考えておりますのでよろしくお願いします。

○**伊藤委員** 今市長さんの方から市制20周年を終えて、今後の20年先を見たら瑞穂市としてのこれから計画がさまざまに展開される年であるということをお聞きしました。その具体的な計画の中に今ご説明いただいたものも当然入ってくるかと思うんですけども、この計画においてやはり1番はここに住んでいる、これから住みたいと思っている市民の声というか、思いや願いをいかに今日お見えの行政の方々が吸い上げて、具体的な計画の中に盛り込むのかということも大切かなと思いますし、また、いわゆる先進的なまちづくりに取り組んでいるところの専門家の方なども、大変参考になるのではないかなという風に思っております。

特に今日のご説明の中で子ども家庭センターを立ち上げるということなんですけれども、瑞穂市の市全体としては子供の人数自体はしばらく少子化になっていかないという傾向があるんですけども、市の各地区を見ると、中小校区であったり、西小校区であったり、同じ市内であっても子供の少子化がどんどん進んでいる。そういう格差ではないですけども、見え隠れしている現状があると思いますので、どの地区に住んでいても、子ども家庭センターのいろいろな事業がうまく活用できる、そのようなセンターの具体的な活動を今後進めていただきたいなという風に思います。

○**市長** ありがとうございます。健康福祉部長さん。いいですか。子ども家庭センター事業について、何か補足することあるかな。

○**健康福祉部長** 失礼します。子ども支援課の中ですでに行っている事業を、子ども家庭センターとして立ち上げますが、瑞穂市は、市民の方に分かりやすくするという趣旨で子ども支援課に一本化していますので、何か困ったこと、相談事があれば子ども家庭センターへという流れを作っていきたいという風に思っております。

○**市長** 新規事業という風に思われがちですが、今までもやっていた事業にまた新たにプラスをしていくような事業となると思います。加木屋委員よろしいでしょうか。

○加木屋委員 ありがとうございます。とてもきめ細やかな計画をしていただいて本当にありがたいなと思います。子供が育つ環境において、子供だけの問題ではなく、福祉とか家庭環境においての問題が多々重なってくると思いますので、どうかいろんな部署との連携をぜひ進めていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○市長 ありがとうございます。連携をしっかりと密に取るというようなことでございました。森下委員よろしいでしょうか。

○森下委員 先ほど大平委員からもあったんですが体育館の空調設備ですが、今日他の所で誰かがこのことについて触れていて、体育館というのは子供たちの場所だけじゃなく、いざという時の大事な避難場所にもなるということでいろいろ計画を進めなければいけないという話が出ていたと思うんですけども、中学校の体育館だけではなくて、小学校の体育館についてはどうかという。これは多分進んでいるんですかね。

それからもう1点ですけども、同じページに書いてある英語教育の推進ですけども、先般朝日新聞に載っていたんですけども、小学生の英語嫌いが増えていると。要は少し難しいことを教えすぎているんじゃないかという記事を見ました。あとは教育格差ですね、塾に行かせたり、英語を別のところで勉強できるような環境の子はいいですが、そうじゃない子もいて、だんだん英語に関して格差が広がっているというようなことが出ていたので、今はまだ始まったばかりだからいいですけども、これから少し様子を見ていかないと、ますます英語嫌いを作ってしまうのではないかという気がしますので、みんなで一緒になって子供を育てていかないといけないかなという風に思います。

あと、市長さんが言われたスピーチコンテストなんですけれども、手前味噌なんですけれども、朝日大学では高校のスピーチコンテストをやっていますので、ノウハウを持っていると思いますから、活用していただいて、ぜひ成功させていただければいいと思います。以上です。

○市長 ありがとうございます。小学校の体育館が進んでいるかというようなご質問だと思いますが、教育総務課長何かありますか。いいですか。

○教育総務課長 いろいろな点を確認しながら、順次予算を財政の方と調整のほうをさせていただきながら小学校のほうを考えていただきたいと思います。っております。

まだすぐに何年度からやるというお話は今計画の方は立っておりませんが、調整しながらと考えております。以上でございます。

○市長 小学校の体育館というのは最終的といいますか必要になると思っております。



す。今回の中学校のエアコンが 3 校とも電気が供給源のエアコンということで、小学校の体育館のエアコン設備の計画では、電気も LP も都市ガスもそれぞれの状況に応じたような供給源で配置ができないかなということも思っておりますので付け加えさせていただきます。

もう 1 点の英語嫌いといいますか、英語の格差が出てきているというようなご質問がありましたが、学校教育課長さん何か分かるでしょうか。私は全く分からないのですが。

○**学校教育課長** 今年度 ALT の活用に伴って、小中学校に児童生徒や先生方に英語の事業についてアンケートを取りました。その結果から市内の小中学生の英語の授業が楽しいという回答がとても高い割合でありましたので、森下委員の発言のとおり、子供たちが授業が楽しいと思って学んでいくという環境を整えていくということが大事だなと思いましたので、ALT の活用も含めて今後も大切にしていきたいなと思いました。

○**市長** そのほかよろしいでしょうか。ご意見等ございましたら。

○**伊藤委員** 意見ではないんですけれども、ちょうどエアコンに関わることと、英語に関わることが出たので話しますが、今日、生津小学校の卒業式に参加させていただきました。生津小学校の体育館は恐らく市内で一番古いぐらいの体育館で、天井は鉄骨がむき出しで、陰になったところでは、すきま風でとても寒かったです。

例えばエアコン設備が整備されて、そのエアコンの効果ですね、断熱面とかでどうなんだろうなど。エアコンをつけることは大事なんだけれども、設置した環境がそれに見合うような環境何だろうかということを含めて避難所として活用できるのかということを考えていただけるのかなと思いました。

それから英語については、生津小学校は英語教育は活発な学校ですけれども、今日の卒業式の中ではその英語については何にもありませんでした。私がかえってそれが素晴らしいなと思ったんです。校長先生の式辞の中では、皆さんはずっと英語を、コミュニケーションをやってきましたが、英語は単なるコミュニケーションの手段の 1 つ、道具であると。大事なのは、これからは AI などが発達する中で想像力を身に着けることと、コミュニケーション能力を身に着けることが大事なんだよと。その 1 つが生津の場合は英語なんだよねというお話をされて納得したんですね。

英語そのものも大事ですけど、人とコミュニケーションをとっていく楽しさとかを子供たちが感じれるようなものにしていくとさらに英語嫌いではなくて、英語を通じたコミュニケーションが好きな子供たちが増えるのではないかと

なということをご今日生津小学校に参加させていただいて改めて思いました。

○市長            ありがとうございました。今1つ目は体育館の中の空調、今回は3中学校と  
いうことで設計をしたときにも市の方では、その話題といいますか、議論され  
たと思っておりますので、エアコンの効果、エアコンをつけた場合に断熱など  
をしっかりとしなければならないかというのを検証したと思うので、教育総務課  
長から、そのあたりについてもお願いします。

○教育総務課長   これも2月16日の定例会の方でも少しお話させていただいておりますが、  
各種フィルムを張って熱を中に入れないとか、屋根の方の吹き替えを行うと  
か、費用対効果の面を考えさせていただいている部分と、あとエアコンの設  
備の方も全国で体育館や学校で整備が進んでいる状況で、かなり性能がよ  
くなってきておる状況でございます。

                  県内で体育館に入れている小学校を参考にしつつ、また教育委員さんにも、  
来年度、市の中学校の体育館の現場の方も確認していただければいいのでは  
ないかなという風に思っているところでございます。簡単ではございますが  
以上でございます。

○市長            ありがとうございました。あともう1つは英語というのはコミュニケーション  
の1つであるというようなことと、ITなどの活用ということのお話もあり  
ましたが、このITについては、私、他の点で少し学校教育課長さんといいま  
すか教育委員会にお伺いしたいということをお思っておりますので、またその時  
にということにさせていただきます。

---

## 議題   こどもまんなか応援サポーター宣言の取組について

○市長            それでは2つ目のこどもまんなか応援サポーター宣言の取り組みについて  
に移らせていただきます。昨年4月に国の方では子ども家庭庁が創設をさ  
れ、瑞穂市ではその1年前、令和3年4月から子ども支援課を設けて、子供た  
ちに関することを一元化できないかというようなことで取り組んできました。

                  子ども家庭庁がこどもまんなか社会の構築ということで進めておる中の1  
つに、こどもまんなか応援サポーターというものがあります。子供たちの一番  
いいことを考えて子の育ちを支援し、子供たちの権利を守るというようなそん  
なこどもまんなか社会の構築だと思います。

                  この「子の育ち」というところが子育てとは少し違うのではないかとい  
うことを思っております。子供たちには自らが吸収して成長しようとする力を持っ

ています。それを私たち大人がサポートをして、その成長の手助けをすることが一番大切だと考え、こどもまんなか応援サポーター宣言をさせていただきました。

また、子供たちの育ちを支援する学びや学習の環境と遊びなどの活動の環境、この2つがよいバランスであることが子供の成長には欠かせないということを思い、今回瑞穂市こどもまんなか応援サポーター宣言をさせていただきました。

今私がお話した趣旨はもう教育委員の皆様にはそれぞれご理解をいただいているということで報告をさせていただきますが、このこどもまんなか応援サポーターというのは、本格的には来年度、この4月から進めていきたいということを思っておりますので、何かこの応援サポーター宣言に関することでご意見やご提案をいただくというものになりますが、どなたもおそらく見守り活動や保護者の子ども会の活動など、それぞれの立場で、子供たちを応援してもらっているというのはもう私どもの方でも理解をしておりますので、このような宣言を行い、さらに子供たちが成長する力を伸ばしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いを申し上げます。

どなたかこのこどもまんなか応援サポーター宣言についての、よろしいでしょうか。

○大平委員 再び自治会長の立場で言うと、今日、牛牧小学校に行って話題になったことですが、子ども会に所属する子供が減ってきているとのこと。私の自治会でも来年度は、休会と言っていますけれども、西小校区では半分ぐらいの地域で子ども会がなくなっています。その原因が2つぐらいあって、習い事とか塾とかで子ども会の行事に参加できない。もう1つは親さんが役職をやらされるとなると辞める。例えば4年生ぐらいまでは子ども会にいるんですけども、5、6年になると辞められるとのことでした。

1番はサポーターであるはずの保護者の方の意識が、地域で育てるといところから離れつつあるんじゃないかなと。自分に身近なことでも参加しないとなっているんじゃないかということを感じているので、こどもまんなか応援サポーターでは、親さんの意識も含めて、みんなで育てるんだよという風に高めていかないといけないかなと。

親さんが関わらないで周りがまんなか応援サポーターと言っても、一番近いのは親さんじゃないかと思っていて、申し上げたような現実にも合う、こどもまんなかで応援していけるといいかなと。ちょっと今日感じたところです。

○市長 とても本当に難しいことだと思います。保護者の方々の意識の改革ということで、瑞穂市は今人口が増えています、巢南の中地区や西地区は除きますが、自治会の加入率とか、子ども会への加入率などもどちらかというと減少傾向に

あつて加入してもらえないような状態や他でもスポーツ少年団などの活動で申し上げると、子供の意志ではなく、親の考えによって活動に参加しないとか、この少年団が比較的楽だからここへ入りなさいとか、そんなような動きがあるように思いますので、改善策というか、難しいことにはなるんですが、私ども行政からすると、自治会に入りましょう、子ども会に入りましょう、防災の時には地域の共助が必要になるということをもう少し鮮明にしていくということが親の意識の改革にもつながっていくのではないかとこのことを思います。難しい課題だと思います。親の意識改革という大きな点でいくと、この辺りについても課題をいただいたということでまた協議をしていきたいということをおもっております。ありがとうございました。

ほかよろしいでしょうか。伊藤委員さんお願いします。

○伊藤委員 宣言文を読ませていただいて、私が一番ポイントだと思ったことは、1行目の「子供のために何が最も良いことかを常に考え」です。こどもまんなかとは、この部分ではないかなと。

もちろん瑞穂市内ではこれまでも子育て支援、教育にかなり具体的に政策を打ち出して力を入れていると思いますが、このこどもまんなか宣言をしたとき、こどもまんなかというのは、とても耳障りがよくて、響きがよくて、どこかマジックワードで、こどもまんなかって言えば何かすべてよいようなそんな感じに受け止められがちじゃないかなと思うんですけども、市長さんがおっしゃったように、子供が育つ力をまず信じること、じっくり見ることが大事ではないかなと。

例えば、こどもまんなかって言いながら子供が何か困っていないのに、手助けをすとか、場合によっては保護者も含めて、サービス過剰、過干渉になってしまって、少し方向的に違うんじゃないかなと。

私は保育園に勤務していますが、子供は泣いたりします。泣いているということは、困っているんですね。その時に子供にどうしたの？ってまず聞きます。そうするとだれだれと喧嘩したとかそういうことを言います。それで何に困っているの？、どうしたいの？って次に子供に声をかける。そうすると仲直りしたいって言います。

その時に、何かお手伝いできることある？って子供に聞きます。そうすると子供はこうしてほしいというようなことを子供なりに考えて言うんですね。そういう子供の意思をくみとりながら対処していくことが、こどもまんなかの具体的な何か手立てが打てるんじゃないかなと。

その真ん中のとらえ方っていうのを、各課の課長さんもみえますので、それぞれの組織と横のつながりの中で、こどもまんなかというのをどう捉えるのかというところを今後各課の連携の上でコミュニケーションを図って検討していただけるといいのではないかなと思います。

○市長            ありがとうございます。本当に子供のために何が一番もっともよいのかということは、考えるというか、それも何かというのは難しい課題だとは思いますが。

ただ、このように宣言をしてやっているということ、市民の人たちにしっ  
かり示すということも必要だと思、市民の方々が例えば朝の見守り活動をし  
て、自分もこの宣言の一員だよなという認識を持ってもらうということも必要  
だと思、今回サポーター宣言をした経緯もごさいます。

そのほかよろしいですか。

○加木屋委員    ありがとうございます。こどもまんなか応援サポーター宣言、とても子供た  
ちのことを考えていただいているお話だなという風に改めて思いました。

その中で大平委員や伊藤委員の意見でもありましたが、あくまでも子供を見  
守る社会の中の一員だという位置づけで子供たちの力というのを信じて、見守  
って育てていける社会でありたいなと思、同時に格差社会の中で取り残  
される子供たちがががないように、きめ細やかな見守りが必要だなと思ってい  
ます。

先ほど保護者の方がどのような地域に関わっていくかというご意見はとて  
も大きな問題だと思うんですが、今の保護者の方は、働いている方も非常に多  
くいますので、私も子ども会の役員とか学校の役員を経験させていただきました  
が、やはりなかなか時間がないので、仕事をしながら地域に関わっていくと  
いうのは本当に大変な話だと思、保護者の方の気持ちとしては恐ら  
く地域にどんどん関わっていきたくと思、一方で自分  
の生活を保って行こうと思、時間と自分の家庭を守ることがまず優先で、  
地域というのがその次になっていくのではないのかなという風に思、

なので、やはりそのあたりのところを地域の全員で見守っていくこと、地域  
で子供たちを育てていくことがこのまちにとって必要なんじゃないかなと改  
めて思、よろしくお願、

○市長            ありがとうございます。やはり保護者の関わりといいですか、地域の皆さん  
の役割というようなご意見だったと思、森下委員にお尋ねしますが、朝  
日大学で学生の方々は卒業して10年ほど経つと保護者になられます。今の学  
生さんの思いというのはどんな感じになるんでしょうね。あまり意識はないで  
しょうね。

○森下委員        と思、

○市長            何かコメントがあつたらと思、無理無理行ってしまいましたが、こどもま

んなかということで。

○森下委員 お尋ねいただきましたので一言だけ。多分、今卒業していく学生は自分のことで精いっぱい、将来のこと、子供を持つとかというところまでは考えていないんじゃないかなと思います。

1 つだけ私は加木屋委員のお話で、子供たち誰ひとり取り残さないという、SDG s につながった考え方、これはぜひ進めなきゃいけないかなと思いました。

○市長 ありがとうございます。

---

### 議題 市の人口減少対策について（意見交換）

○市長 それでは3点目の議題の方に行きますが、市の人口減少対策という大きなタイトルにはなっていますが、昨年12月に社会保障・人口問題研究所の方が出されました瑞穂市の全国の自治体の将来の人口推計が出ています。

瑞穂市の場合、今2024年ですが、2030年ぐらいまでは緩やかに人口が増え、その後人口減少に進んでいくというようなことで、前回のこの社人研の人口推計よりは人口減少の進みが早くなってきたと思います。前回の結果ではもう少し緩やかに人口がもう少し増えた後、減少していくということになっていました。

しかし2040年、全国的には最も高齢化が進むといったところでも、現在の人口が5万6千314人になりますが、その人口は2040年にも維持をしていけるというような嬉しい状況だということだと思いますが、この点も4月以降に策定する総合計画の中で人口推計を分析を行うとともに、人口減少対策というのは、それぞれの自治体が自らの状況を把握をした対策をしなければ、人口が減るのを防ぐことにもならないということを思います。

今日は、この人口減少対策のご意見を伺えればと思いますが、次の資料は瑞穂市の小学校区別の人口ということで、穂積地区と申しますか、生津小、本田小、穂積小校区、牛牧小校区とも人口は右肩上がりとなっています。

一方で西小校区、中小校区については逆に人口が減少するような状況となっているということで、先ほども少しお話をしましたが、瑞穂市の状況を把握するといった点でやはり西地区、中地区への人口減少対策が必要になるということになります。

しかしこの西地区、中地区というのは、瑞穂市の農業振興整備区域といい申しますか、農振地域の中に位置しているということから、容易に開発ができないというようなそんな難しい問題もあると思います。

令和3年4月から、この瑞穂市農業振興地域の整備計画の変更、農振除外に

おける瑞穂市の適用基準について緩和をしております。まず1点目が一般の個人住宅については、最小限の規模で面積、農地の集積、集約化を進める担い手の、農業経営の支障にならない範囲で地形や、その区の境界などもしっかり考慮したうえ、既存の集落に接続するような住宅用地については認めていくといったような一般住宅の建築ができるように少し緩和をしていったということになります。

さらに2点目は工場とか事務所などについても、県道や市道や河川や水路に囲まれたこれから企業の進出が図れるような地域については許可を認めていくというような2つの方針で進めています。周知が不足しているような点もあったりするので、人口が維持できるような水準までには至っていないのが現状となります。

もう1点は空き家問題。空き家についても人口減少対策の1つだと思います。空き家については瑞穂市の場合は危険な空き家を特定して、取り壊しなどを進める所属の部署と、もう1つ空き家を利活用したりするような部署がうまく連携ができていないというのが1つ課題だということで、県の方にも空き家をリフォームしたりするような補助金のメニューもあるということで、活用ができるようなことを4月以降、考えていきたいということを思います。

西小校区にはサンコーパレットパークといった大規模な公園があるということで、のびのびと子育てができるようなそんな環境もあると思います。それぞれの方々が穂積地域を選ぶのか、巣南の広々とした敷地の中で子供たちをゆったり子育てができるような環境を選ぶのかというような、移住される方が10人いたら2人や3人は巣南の中小校区や西小校区でも、車もあり交通の便もほとんど変わりはないということで、選択される方もおられると思いますので、そのような方々に西小校区や中小校区の物件や土地をデータで示すことまでができていないというのが今の現状なので、4月以降改善していきたいと思っています。

とにかく西地区、中地区の人口減少対策を止めていきたいということ、さらに、穂積地区にあっては、空き家の利活用をしっかりと考えていかなければならない。穂積地区は市街化区域なので市街化区域の優良な住宅となる、提供できるような田畑は年々少なくなっているという状況ですが、空き家についても対策をもって人口減少対策をしていかなければならないと思っています。

女性の会の会議での話題で、空き家問題について取り上げられたときに、私の家庭もそうですけど皆さんのご家庭も、子供さんたちがもう大きくなって成人されて、別の家に住んでみえる。そうすると高齢者の2人の世帯になり、後にはお1人の世帯になるということで、お2人ともが元気なうちにこの家を将来的にどうしていくかということをご家族やお子さんと相談する機会を持っていただきたいというお話をさせていただいたら、皆さんがその通りだと、

自分の所は何にも決まってないが、どうしようというようなことをかなりの方が後からおっしゃられたので、そういうようなこの家を将来的にはどうするのかということも今のうちから、終活といったそんなことに結びつけるとちょっと寂しいので、そうではなく、子供が帰ってくるのか、どうされるのかということも相談していくようなそんな体制づくりをしていきたいということを少し付け加えさせてご説明をさせていただきました。

何かこの人口減少対策について、大平委員はご意見があると思いますが、よろしいですか。

## ○大平委員

人口減少もあってさっきの子ども会の話もありますので、子ども会がなくなっても、子供の成長のためにできるだけ自治会の方でバックアップをするということで、去年のサマーフェスタでもラジオ体操とか、フェスタ自体も自治会が入って人を集めました。今回も春祭りの子供神輿というのが再開しましたけれども、前は子ども会がやっていたのを自治会がやりますよと、だれでも参加してくださいよというやり方にして、少しでも子供たちが地域で楽しくなるような環境を作りつつはあります。

この中小校区と西小校区で特に西小校区が減少幅が大きいんですけれども、市長さんも十分ご存じだと思いますけど、まとまった土地を確保して、その地域の者じゃなくても住めるようにしないと、ちょっと難しいかなという気はしております。

実際に子供たちが大きくなって親と一緒に住まなくなると、例えば瑞穂市の家は売ってしまうとかいろいろな事情がありますので簡単にはいかない、長い目で見て対策をしていかなければいけないですし、私たち自治会執行部もバックアップしていかないといけないと話しています。

それで、人口減少対策ということで言いますと、さきほどの予算の資料の中で、不妊治療のバックアップというのは、よいのではないかなということをおもいました。私も本日の会議に来る前に考えていたことがそれです。

それから西小校区とか中小校区に関わるかはわかりませんが、去年加木屋委員がおっしゃった若い人たちが楽しいと思える行事やイベントを行っていくとよいのではないのでしょうか。瑞穂市は朝日大学があって非常に若い方がいるので、若い方々が将来的にある程度市内に残ってくれるように考えると、市全体の人口の減少は少なくなると思います。そのために若い人たちが楽しんでいたり、つながりができるようなイベントなり、クラブなりといった事業があるといいなということをおもっていました。

実際にこの前20周年の朝日大学の方々の講演会の時に他県からも多くの方が来てもらっていて、瑞穂市って魅力あるなという感じてもらうこと、そんな機会を通じてみんな瑞穂市へ行ってみようかなという気持ちになるんじゃないかなと思い、朝日大学の方々のような魅力的な行事を長い目で見てやって



行くといいんじゃないかなという感じはします。ちょっと話がまとまってなくてすいません。

○市長

ありがとうございました。今おっしゃられたのは朝日大学の吹奏楽部の演奏会かと思います。年に2回ぐらいお世話になっておりますが、本当に他県からもたくさん、県内からももちろんですがたくさんの方が来られるということだと思えます。

これはまた人口の減少対策という大きなテーマですのでどなたかご意見があればと思いますが、何かご提案があったらお聞きしたいと思えます。いかがでしょうか。いいですか。

○森下委員

提案はないんですけど、最後のグラフですよ、この見方っていうかな、色のついた棒グラフが人口ですよ。例えば生津小校区とか穂積小校区は増えているんですけども、下の数字である0歳から14歳までの子供の人数をみますと生津小校区でも15年から減っているんですよ。2015年から19年まで、2019年から23年の両方ともマイナスです。だから人口は増えているけれども子供は減っていると。

穂積小校区も2019年から23年に至っては59人減っていると理解していいと思えますけれども、結局大平委員が言われたように、子ども会をやりたくても子供はいないという状況に段々なりつつあると資料からも分かります。これは確かに何とかしないといけないというのはわかりますけれども、かといって特に何かがあるわけではございません。すいません。

○市長

そうですね、今おっしゃられたように人口は増えていますが、子供については横ばい、もしくは微減の状況で、今年度小学校1年生になった子供の数で550人ぐらい。でも今1年間に生まれてくる子供は400人とちょっとぐらい。だから今の数字を見てもらっても減少傾向に、子供の数は減ってきているというような状況になると思えます。しっかりとした少子化対策といえますか、人口減少対策が必要になると思うんですが、なかなか様々な政策をしても子供が増えてくるという実績をだすのは難しいかなと思えます。だから今の現状を何とか維持をしたり、欲を言えば増やしていけるよう、ありがたいことに冒頭でも話しましたが、瑞穂市の状況としては駅があり、市の玄関口があり、国道があり、県道があり、他市町ではインターもオープンするとか、企業誘致が行われていますが、企業に通っていただくなど、住宅地として瑞穂市を選んでいただくというような考え方でこれからもまちづくりを進めていきたいということをおもっています。

お時間もかなり来ておりますが、その他で少し、気になることがあったのでお聞きしたいんですが、学校教育課長さんになると思えますが、2020年ぐら

いから小学校で必修化されたといわれるプログラミング教育ですが、2021 年からは中学校の技術家庭科でも拡充され、2025 年からは大学入試にも情報というような分野でプログラミングというのが入ってくるということです。小学校や中学校で全員、児童生徒が、プログラミングの基礎やリテラシーを身に着けることが大切だというようなことで、プログラミング教育を通じてドローンやロボットなどの知識などをしっかり習得をしていくというようなことが今言われています。

実は先月にこの岐阜県域の首長会議の中でも、チャット GPT というのを活用した話が講師の人からあって、早速その会議の中で、携帯にアプリを導入して、「瑞穂市の特色は」とか、いろんなことを尋ねてみたら、「瑞穂市には瑞穂盆地があって、瑞穂川が流れている」とか意味不明の情報が入ってきて、「それは間違っていますよ」とまた打ち直すと、「失礼しました。そんな盆地や川はありません。人口が増えていて何とか何とか」と、どんどん瑞穂市を中心にチャットの中に情報を打つと、そのデータがどんどん更新されて精度の高いものになっていきます。このデジタルの発達について、その講師の方が、バーチャル空間の市役所というテーマを話され、もうそんなところまでデジタルの分野は来ているのかと。デジタルの世界で市役所の階段を上がって行って、福祉課の窓口へ行って、相談をしますと、この資料はあなたの方のメールに資料をお送りしますねというようなやり取りがあったというようなことで、これから先デジタル分野がいろんなところで活用されるのかなと思った次第です。

不登校の子供さんたちも学校に来てもらうということはなかなか難しいかもしれないので、こういうデジタル化、オンラインなんかを活用してくこともよいのではないかなと思ったので、このプログラミング教育について今進めてみえることをちょっとお話を聞きたいなということで、IC 活用の点も含めて今の状況はどのようになっているのかということをお伺いしたいなと、前段が長くなりましたがお願いします。

○学校教育課長 ではよろしく申し上げます。令和2年度からのプログラミング教育の実施にあたり、国の方から小学校のプログラミング教育の定義というのが配布されております。各学校はそれをもとにしながら学習指導要領の中にもプログラミング教育の具体的な事業についての定義がされていますので、それを参考にしながら指導計画を作成してプログラミング教育の実施を行っております。

発達段階に応じて小学校1年生から6年生の中で系統的に指導することが求められていますので、例えば理科の授業の中で身の回りの電気の性質や働きを利用した道具について調べようということであったり、算数の授業の中で正確な正多角形をどのように描いたらいいかということであったり、現在1人1台タブレット端末が貸与されていますので、そういった情報機器を

活用しながら情報活用能力を育てつつ、大事なことはプログラミング的思考、論理的思考を身に着けることをいかにやっていくかということ、小学校1年生では1年生の中で受け身になって情報を得るためのツールではなくて、自ら発信していくツールにしていくにはどうしたらいいかというところを随時学習をしているところでございます。

中学校で申しますと、先日の公表会だったか市教委訪問だったかどちらか忘れてましたが、技術家庭科の授業で、私がお邪魔したときにちょうど防災に関わって、例えば熱中症対策として、温度などを光で警告を発するのか、音で警告を発するのか、どういう風に装置を作ったらいいかということ、マイクロビットという機械があるんですけども、この機械を技術課の授業の中で使うというようなこともやっておりますし、小学校ですと、スクラッチというプログラミングのツールを使いながら日常生活の中でプログラミングがどんな場面で活用されているか、実際に自分で触って、体験をしながら順次発達段階に応じてプログラミングを身に着けていく中で続けているところでございます。

お話のあったチャットGPTについては、来年度から穂積中学校の方で、県の中で2校指定があるんですけど、チャットGPTをいかに教育活動の中で有効に活用できるのかといったところで、指定を受けましたので、先日総合政策課等にも手伝っていただいて、市の情報発信のルールに従っていかに使っていくかというところの打ち合わせをさせていただいたものでございます。以上です。

○市長            ありがとうございました。皆様方は日ごろから教育委員会の定例会などで伺ってみえると思うので特段よろしいかと思いますが、伊藤委員はいかがですか。

○伊藤委員       失礼します。今の課長さんのお話を私も納得して聞いていたんですが、冒頭の英語教育と同じで、英語を話せることやプログラミングができることではなくて、英語だったらコミュニケーション、プログラミングだったらそのプログラミング的思考、物事を筋道立てて考えていくというそういう生きる力につながるような1つの手立てとしてやっていくと思うんですけども、子供の立場からするとどうなんだろうなど。プログラミングなどを学校で学んだことが、自分の生活の中である時に活かせたりとか、得したりとか、それから何か生活しやすくなったりとか、他の勉強に活かせたりとか。その子供にとってプラスになるようなつながりとして英語にしても、プログラミング学習にしても学校を通じて学んでいけるということが大事ではないかなとあらためて思いました。

○市長            ありがとうございました。まんなか応援サポーター宣言にもありますが、何

が最も良いことかと同じだということを思います。他にどなたかご意見ございませんでしょうか。無いようでしたら最後になりますが、教育長より今までの内容を踏まえて、お願いします。

## ○教育長

皆さんのいろいろなお話をお聞きして感じたことを少しお話させていただきます。プログラミング教育といったような、今の子供たちに本当に喫緊の課題というか、これからの社会に出る子供たちに必要なことってというのは当然教えていかなきゃならないと思うんですけど、1点目は伊藤委員が言われたことと重なりますが、子供にとって何が大事かということはぶれないでおきたいなと思っていて、本当に私が子供にとって何が大事かなって考えているのは3つほどあって1つ目はやり抜く力、2つ目が人と関わる力、これはコミュニケーション能力に関わることですが、それから3つ目が自分で考え、判断し行動すること。いろいろな情報が入ってきたりする中で、何が今大事か、どうすればいいかということを経々考えなくなっている傾向があるように思います。周りが言ったことをそのままやってしまうとか。非常に社会がいろいろな状況がある中で、そういうことを自分で考えて判断して次へ進んでいくということをつけないと10年先20年先を見据えたときに難しいんじゃないかなということも1つ思いました。

2点目は、持続可能な方法でやって行くということが大事かなと思っています。子ども会のこととか少子化のこととか、それから地域のかかわりなど、周りの状況が変わりますよね、子供を支える方も減ってきている、高齢化もある中で、これまでと同じことをやっても続かないと思うんですよね。だから学校は学校の働き方改革もあるんですけど、地域の方もいろいろなご事情を抱えてみえるので、どういった方法でやるとお互いに継続可能なのかということを見直していく、やり方を変えていくということはすごく大事だなと感じています。子ども会の方でもそうですし、生涯学習課の市民育成会議もそうですけど、そういったことを大事にこれからしていきたいなと。

教育委員会だけじゃなくて他の部署とやっぱり連携しないとできないことはたくさんあるなということの特にこの2年間感じましたので、それを大事にしてやって行きたいなと思っております。以上です

## ○市長

ありがとうございました。以前と比べて市内の小学校や中学校のお子さんが私のところに報告に来てもらう機会が数段増えました。例えば穂積北中学校の生徒が2年越しで地産地消の献立を考えて、1年前はだめだったけど、2年目は賞を取ることができた。またその生徒の方も中学校2年生、今度3年生になるので、是非とも考えた給食の献立は、中学校へ私もうかがうし、部課長も行って、その生徒たちのどんな思いでその給食の献立を立てたのかということを議員の方々も含めて、今は各小中学校はオンラインでつながるので、良いことは

どんどん広めていくというようなことも必要だと思います。それ以外にも読書の作文で県知事賞をとった小学校のお子さんも来てもらいましたし、各種のスポーツの大会で全国優勝した、空手で優勝したとか報告をいただきます。本当に以前より多くの報告をいただくと思うので、よいお話を広げていきたい思いお話をさせていただきました。

今日はお時間を少しオーバーしてしまいましたが皆さん方からご意見をいただきました。次回はまだいつかは決まってはいると思いますが、また皆さんから今の学校の状況などをお聞きして、何か予算の編成時期までに何か手立てができるようにしていきたいと思いますので、新年度につきましてもよろしくお願いを申し上げ、事務局の方にマイクを渡しますのでよろしくお願いを申し上げます。

最後に今回のこの会議録については私が作成するというで一任していただけますかね。ありがとうございます。では事務局の方にお返しをいたします。

---

○総務課長　　本日は活発なご審議ありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉会　午後2時40分